

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2016.10)平成27年度:17.

卒後1年から3年の看護技術の修得状況

三浦 美佳, 三島 玲子, 黒崎 明子, 上田 順子

## 卒後1年から3年の看護技術の修得状況

旭川医科大学病院

○三浦美佳、三島玲子、黒崎明子、上田順子

### 【目的】

A病院では、厚生労働省の「新人看護職員研修ガイドライン」にそって新人看護職員研修を実施し、到達度を評価している。「看護職員として必要な基本姿勢と態度」および「管理的側面」に関しては、1年でほぼ目標に到達しているが、「技術的側面」の一部の項目は2年目以降の課題となるものがある。そこで、卒後2年目、3年目の到達度を調査し、看護技術の修得状況について報告する。

### 【方法】

2015年3月時点でA病院に勤務している職員のうち、2012年度に新卒で入職した看護職員（卒後3年目）60名、2013年度に新卒で入職した看護職員（卒後2年目）64名、計124名のうち同意の得られた卒後3年目48名、卒後2年目57名、計105名を対象とした。A病院の「技術的側面」の到達度調査としてA病院の基礎看護技術共通チェックリストの自己評価を集計した。倫理的配慮は、研究者の所属する施設の倫理委員会の承認を得て実施し、研究の目的・方法・倫理的配慮を文書で説明を行い、同意書の提出により意思を確認した。

### 【結果】

1) 卒後2年目：1年以内に到達を目指す40項目の到達度

到達の目安が「できる」の29項目について、卒後2年目の自己評価はすべての項目で「できる」の割合が80%以上だった。到達の目安が「指導のもとできる」の10項目について、卒後2年目の自己評価が「できる」と「2:指導のもとできる」の割合が80%以上の項目は6項目だった。80%未満の4項目は、「気道確保」「人工呼吸」「閉鎖式心臓マッサージ」「気管挿管の準備と介助」だった。

2) 卒後3年目：1年以内に到達を目指す40項目の到達度

到達の目安「できる」の29項目について、卒後3年目の自己評価はすべての項目で「できる」の割合が80%以上だった。到達の目安「指導のもとできる」の10項目について、卒後3年目の自己評価が「できる」と「指導のもとできる」の割合が80%以上の項目は、9項目だった。80%未満の1項目は、「閉鎖式心臓マッサージ」だった。

### 【考察】

「技術的側面」の到達度について、卒後3年目は到達の目安にほぼ達している。1年以内に到達を目指す項目は、経験を積み重ねると新人看護職員研修以降の継続した教育により、「できる」という自己評価につながったと考えられる。看護技術については入職後3年間かけて修得できるように支援する必要がある。